

2026 年 7 月
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

セーブ・ザ・チルドレン まなび・体験ファンド第 4 回 募集および採択の状況

まなび・体験ファンドとは

子ども期に、学習に限定されない幅広いまなびや豊かな体験活動を経験することは、子どもの主体性や社会性を高めたり、心身を育んだり、自己肯定感を培ったりする上で重要です。しかし今、物価高騰、相対的貧困などの影響もあり、子どもが日常から離れた場で未知の体験をしたり、さまざまな大人や友だちと触れ合い、多様な人間関係を持ったりする機会が減っています。特に、経済状況をはじめさまざまな困難が伴う世帯などにおいてその傾向が際立っています。

このような状況を踏まえ、セーブ・ザ・チルドレンは、子どもに向けてまなび・体験の機会を提供する地域の非営利団体を応援する「セーブ・ザ・チルドレン まなび・体験ファンド」を 2023 年より実施しています。長期休みがあり体験機会の差が生まれやすい夏の時期に、子どもたちが遊びや活動、新しいもの、未知のものに触れたり、まなんだりする機会をより多く実現し、子どもの育ち、まなび、遊び、参加などの基本的な権利が守られることを目指しています。

ファンド概要

日本国内の子どもたちに向けてまなび・体験の機会づくりに取り組んでいる地域の非営利団体を対象に、事業実施のための資金助成と、団体の活動において関係者による虐待や搾取など、子どもの権利に反する行為や危険を防止し、子どもにとって安心・安全な活動を進めるための「子どものセーフガーディング研修¹」を行います。

対象となる事業

子どもが遊び・活動や、新しいもの・未知のものに触れたり、まなんだりすることで、子どもの権利保障が期待される事業を募集します。ここでの「まなび」は、広い意味で使っており、「学習」の場に限定しません。

特に次のような点を重視します。

- 世帯の経済状況、障害、言語的障壁、社会的養護などの環境により、まなび・体験の機会が得られにくい子どもを対象としている、もしくは対象に含めていること
- 上記対象者がまなび・体験の機会を得られにくい理由や背景を的確にとらえていること
- 上記の状況を解消するための具体策があること（例）対象者へ確実に情報を届ける手段の確保、参加へのサポートなど

¹ 質の高い組織と事業づくり「子どものセーフガーディング」|セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンについて|セーブ・ザ・チルドレンとは|セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
(https://www.savechildren.or.jp/about_sc/quality1.html)

第4回の実績

- 助成事業の実施期間：2026年7月1日～10月31日
- 助成対象団体：特定非営利活動法人（NPO法人、認証・認定）、一般法人（非営利型）、公益法人、社会福祉法人、任意団体などの非営利団体
- 助成金額：1件あたり50万円～150万円
- 審査方法：5月にセーブ・ザ・チルドレン内部の審査員による書類審査および審査会を行いました。
- 採択団体：8団体（ABC/五十音順）※事業概要、採択理由などについては文末の表をご参照ください。

VIAN

遠州こどもきょうだい会 ミントモ

一般社団法人芸術の森

こおりやま日本語教室

特定非営利活動法人こどもの里

特定非営利活動法人女性ネット Saya-Saya

特定非営利活動法人スマイルバトン

社会福祉法人みその児童福祉会 児童家庭支援センター高知ふれんど

第4回申請案件全体の傾向

2026年2月20日から4月12日の申請期間に、63件の申請がありました。

事業分野別に見ると、自然体験活動の申請が多く、次いで科学や芸術などに関する活動、スポーツ・レクリエーション活動、職場・職業体験活動などが続きました。そのほか、交流、読書、外出支援、平和学習などの申請もありました。

審査では、世帯の経済状況、障害、言語的障壁、社会的養護など、環境により、まなび・体験の機会が得られにくい子どもたちが対象となっていることを最も重視しました。経済的困難や、疾病や障害のある、外国にルーツがある、社会的養護下にある、不登校であるなど、取り残されがちな子どもの状況を踏まえた事業が多く寄せられました。

審査講評

取り残されがちな子どものまなび・体験を保障しようとする申請を、数多く寄せていただいたことに御礼を申し上げます。さまざまな状況の子どもに目を向けた取り組みが、全国各地で行われていることを感じました。

募集要項で示した通り、取り残されがちな子どもの状況が的確に把握されているか、参加障壁を取り除くための計画があるか、などの点に留意して審査を進めました。高く評価された取り組みとしては、難病や障害のある子どものきょうだいへの支援、外国にルーツを持ち、地域に分散して暮らす子どもの交流、養育環境に困難がある世帯の状況に寄り添った体験などがあります。

また、子どもが体験事業に行きやすくなるよう、保護者の理解を促す取り組みや、実施時の送迎など、参加のハードルを下げる具体的な工夫があることも重視しました。

さらに、子どもとともに行う活動は、安心・安全を確保した上で、子どもの意見が大切に扱われる環境がつくられて

いることが望めます。これは子ども参加を推進するセーブ・ザ・チルドレンがすべての事業において留意している点です。本ファンドにおいても、子どもの状況にあわせて適切に声が聴かれ、事業へ反映する計画がある事業を高く評価しました。

最後に、子どもの権利を尊重した活動を実現するためには、組織的かつ計画的なリスク対策が欠かせません。事故や災害対策などの安全確保に留まらず、関係者による虐待や搾取など、子どもの権利に反する行為や危険を防止し、安心・安全な活動と運営を目指す組織的取り組みを「子どものセーフガーディング」と言います。この取り組みは、子ども支援活動を行うすべての NPO において重要です。子どものセーフガーディングの実践がより多くの NPO へ広まることを期待しています。

助成先団体・事業 採択理由一覧(ABC/五十音順)

事業名	ラントイのベトナム・サマースクール 2026 子どもがつくる!水上人形劇 Đì thôi (ディ・トイ)!
団体名	VIAN (ヴィアン)
参加者募集地域	兵庫県全域
事業実施地域	兵庫県神戸市
事業概要	外国にルーツを持つ子どもは、日本社会の中で、周囲の人々に母国の文化が十分に理解されにくく、またルーツに触れる機会も限られている。このため、アイデンティティの揺らぎなどの課題が生じやすい。本事業では、ベトナムにルーツを持つ子どもたちが伝統芸能の水上人形劇に取り組み、その成果を地域住民に披露する機会を設ける。これにより、自らの文化的背景を肯定的に捉え直すことを目指す。
事業期間	2026 年 8 月 1 日～8 月 31 日
助成額	827,000 円
選定ポイント	外国にルーツを持つ子どもにとって、母国文化に触れる体験は重要である。本事業はベトナムにルーツを持つ子どもの状況や課題を的確にとらえた取り組みである。また、都市部以外に暮らす子どもにも目を向け、送迎の負担や保護者の理解が進みにくいといった課題を踏まえた工夫が検討されている点も評価した。

事業名	きょうだいサマーキャンプ
団体名	遠州こどもきょうだい会 ミントモ
参加者募集地域	静岡県西部
事業実施地域	静岡県浜松市
事業概要	難病や障害のある子どもの兄弟姉妹(きょうだい児)を対象としたキャンプを実施する。難病や障害のある子どもを育てている世帯では、医療的ケアや生活上の制約から、外泊や野外活動をする機会が制限されている。また日常生活において、きょうだい児は自分の意見や気持ちを伝えることを控えてしまう傾向にある。本事業では、同じ立場の仲間とともに安心して過ごし、自分が主役となって自由に遊ぶことのできる宿泊体験の機会を提供する。
事業期間	2026 年 7 月 1 日～8 月 31 日
助成額	622,486 円
選定ポイント	きょうだい児の悩みや置かれている状況は注目されにくく、行政による制度的支援も整っていない。そのような中で、きょうだい児に特化して体験機会の保障を支援する取り組みは貴重である。また、子どもの声を聴きながら活動を進めるための工夫が随所に見られた点も高く評価した。

事業名	子どもが描く&叶えるあそびツアーとあそびツアーthe movie 2026
団体名	一般社団法人 芸術の森
参加者募集地域	関西圏、首都圏
事業実施地域	子どもたちが計画するため未定
事業概要	ウクライナから日本へ避難している子どもたちは、文化や言語の違いに加え、経済的困難などから孤立した生活を余儀なくされている。また同じ背景をもつ仲間と出会う機会や、母語で遊ぶ機会が得にくい状況にある。本事業では、こうした子どもたちが自分のやりたいことを表明し、安心して集える場を提供する。
事業期間	2026 年 7 月 1 日～10 月 31 日
助成額	1,020,396 円
選定ポイント	ウクライナから避難し、困難の多い暮らしを送る子どもたちが、自らのやりたいことや行先を決めて出かける経験は、子どもの体験機会の保障という点で意義がある。また、戦争を経験した子どもとの活動においては心理面でのサポートがより重要と思われるため、心理専門職と連携した支援体制が整っている点も評価した。

事業名	多文化キッズキャンプ福島2026
団体名	こおりやま日本語教室
参加者募集地域	福島県全域
事業実施地域	福島県猪苗代町
事業概要	福島県内には外国にルーツを持つ子どもが多数いるものの、各地に分散して暮らしている。そのため、子どもや保護者が交流する機会も限られている。本事業では県内の支援団体が連携し、子どもと保護者を対象とした宿泊型の交流会を実施する。同じ背景をもつ仲間や先輩と出会い交流することで、自らの状況を前向きに捉える機会となることを目指す。
事業期間	2026 年7月1日～9 月30日
助成額	534,000 円
選定ポイント	同じ背景をもつ仲間との交流は、孤立しがちな状況にある子どもたちにとって、自己肯定感を育むことができる体験機会として評価できる。加えて、ロールモデルとなる若者と交流する機会や、言語・宗教への配慮などもあり、子どもたちが安心して参加できるよう丁寧に設計された取り組みである。

事業名	命と平和、こどもの権利を考える夏
団体名	特定非営利活動法人 こどもの里
参加者募集地域	大阪府大阪市西成区
事業実施地域	広島県広島市、竹原市
事業概要	本事業は、子どもの遊び場や居場所の提供と、平和学習に取り組んできた団体が、子どもの発案を受けて広島への旅行を実施するものである。参加する子どもは、居場所の利用者であり、社会的養護下やひとり親・生活困窮世帯、保護者の不調など、経済的困難や養育環境の状況により旅行の機会が限られる世帯の子どもも含まれる。
事業期間	2026 年7月1日～10月31日
助成額	852,520 円
選定ポイント	困難のある世帯の子どもによる、平和について学ぶ機会を支援する取り組みである。あわせて子どもの主体性を尊重し、その意欲を後押しするという点でも意義がある。広島訪問に向けた事前学習から事後学習まで丁寧に計画されている点も評価した。

事業名	DV などの暴力被害により心身の傷つきを抱えた子どもと母の回復のための体験活動
団体名	特定非営利活動法人 女性ネット Saya-Saya
参加者募集地域	東京都、千葉市
事業実施地域	千葉県鴨川市
事業概要	DV などの暴力被害を受けた女性と子どもの支援に取り組む団体による、母子の心の回復を支える宿泊型プログラム事業。暴力被害による心身の傷つきや孤立といった課題に対し、安心できる環境での体験や交流を通じて意欲を回復し、将来に向けて踏み出す力を育むこと目的としている。
事業期間	2026 年7月1日～10月31日
助成額	1,470,684 円
選定ポイント	DV などの被害を受けた母子を対象として、経済面と精神面の両面から支援を行う取り組みである。その必要性は高く、助成意義が大きい。申請された事業内容および体制の具体性が高く、対象者に応じた丁寧な配慮が見られる。DV などの被害を受けたことに加えて、障害や外国にルーツを持つなど、複合的な背景を持つ子どもへの理解と配慮がなされている点も重要である。

事業名	子ども主体で創る「学びの旅」プログラム 不登校の子どものための修学旅行代替プロジェクト
団体名	特定非営利活動法人 スマイルボタン
参加者募集地域	岐阜県岐阜市
事業実施地域	岐阜県岐阜市、美濃市もしくは郡上市
事業概要	不登校の子どもは体験機会や他者との関わりが得にくく、社会との接点を持ちにくい状況にある。とりわけ経済的困難がある世帯ではその傾向がより顕著になりやすい。本事業では、不登校の子どもを対象に宿泊を伴う体験活動を実施する。
事業期間	2026 年7月1日～10月31 日
助成額	1,033,600 円
選定ポイント	不登校の子どもの体験機会を保障する事業であり、特に不登校に加えて経済的困難のある世帯の子どもに焦点を当てている点に意義がある。日常の活動で培った子どもとの関係性を基盤に、子ども自身が旅行を計画するなど、主体的な参加の工夫を具体的に組み込んでいる点も高く評価した。

事業名	未来を拓くまなびと体験の機会を!! カヌー&ランチ体験 in 仁淀川
団体名	社会福祉法人 みその児童福祉会 児童家庭支援センター 高知ふれんど
参加者募集地域	高知県高知市
事業実施地域	高知県吾川郡いの町
事業概要	養育環境に困難がある世帯の子どもを対象とした自然体験事業である。体験機会が限られがちな子どもたちに対し、非日常の体験の機会を提供する。また、この取り組みを通じて子どもと保護者、地域とのつながりづくりを促進する。
事業期間	2026 年 7 月 1 日～9 月 30 日
助成額	695,160 円
選定ポイント	困難度の高い状況にある子どもを対象としており、本ファンドが目指す機会の平等の観点から意義が大きい事業と評価した。子どもや保護者の個別状況を踏まえた、丁寧な周知や移動手段の確保、特性に応じた対応など、参加しやすい環境づくりが行き届いている。加えて、多様な関係機関や専門職が関わりながら実施される点も評価した。

以上